

(2) 平成14年4月に農林水産省は「食」と「農」の再生プランを発表した。そしてこのプランの柱である「都市と農山漁村の共生・対流」を進める具体的な措置の一つとして農林水産省は「e-むらづくり計画」を発表した。この計画はITを活用した効率的な農林漁業の展開や農山漁村の生活環境の向上、都市と遜色ない情報基盤の実現を目指すものである¹⁾。

「e-村づくり計画」の基本的な考え方として次のような記述がある。

農林漁業では農林水産物の生産性を高め、流通コストを削減するとともに、効率的な農林漁業経営の促進（経営の多角化、新たな市場開拓等）が求められている。また、国民の「食」に対する信頼の回復も喫緊の課題である。

農山漁村では、近年の急激な社会構造の変化の中で、農林漁業就業者数の減少と混住化が進んでおり、さらに、高齢化・過疎化の進展等により活力が低下しつつある。また、国民の価値観や生活様式の多様化により、農山漁村は食料供給の役割のみではなく、都市の多様なニーズに応える場として期待されている。

これらの課題や期待等に応じていくためには、地域の個性やニーズに応じて、情報利活用システムの充実、情報通信基盤の整備、情報利活用能力の向上を行うとともに、IT関連技術開発等を総合的かつ計画的に進めることで、農林漁業経営の効率化、農山漁村の振興、都市と農山漁村との共生・対流に資するものとする。特に、民間事業者による情報通信基盤の整備が期待できない条件不利地域に対する施策やむらづくりとしての先導的な取り組みを中心に支援を行っていく。

また、「e-村づくり計画」の具体的目標として次のような記述がある。

農林漁業者の高齢化が進むとともに、効率的な農林漁業経営が求められる中で、情報システムやネットワーク等に加えて、ほ場や作業現場などにおいても情報の受発信がいつでもどこでも可能な（ユビキタスな）環境やITを活用したロボット技術など新たな農林漁業機械・施設等の技術開発及び普及、さらには次世代型の農林漁業の推進が期待される²⁾。

引用文献：

- 1) プレスリリース「e-むらづくり計画」の策定について、農林水産省ホームページ
(http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20030709press_2.htm)、2003
- 2) e-むらづくり計画、農林水産省ホームページ
(http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20030709press_2b1.pdf)、2003

「e-村づくり計画」実現のために食料生産環境工学はどのような貢献ができるであろうか。自分の考えを述べよ。